



「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 28 年 8 月 4 日	
所属部局・職	野生動物研究センター・修士課程学生
氏名	井上 漱太

<b>1. 派遣国・場所</b> (〇〇国、〇〇地域)
新潟県 京大笹ヶ峰ヒュッテ
<b>2. 研究課題名</b> (〇〇の調査、および〇〇での実験)
笹ヶ峰実習 無積雪期
<b>3. 派遣期間</b> (本邦出発から帰国まで)
平成 28 年 7 月 29 日 ~ 平成 28 年 8 月 1 日 (4 日間)
<b>4. 主な受入機関及び受入研究者</b> (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
静岡大学 杉山茂准教授
<b>5. 所期の目的の遂行状況及び成果</b> (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
今回の実習では、笹ヶ峰ヒュッテ付近の散策、植物観察、火打山登山を中心にフィールドワークの基礎となるサバイバル技術の基礎を学ぶことを目的として活動を行った。 初日はヒュッテに到着後、ヒュッテ付近の草原を探索し、植物観察を行った。危険な植物や食べることのできる植物のレクチャーを受けた。二日目は涸沢の探索を行った後、地図の読み方のレクチャーを受け、夜はロープワークの基礎を学んだ。三日目は火打山登山を行った。四日目はビバークを用いた緊急時の対応についてレクチャーを受けた。どのレクチャーも非常な基礎的なものであったが知らないことや、出来ないことばかりで、今後の研究活動において必ず役に立つものだと感じた。 植物観察においては、ほとんど名前を知らない状態で臨んだので、覚えることに非常に苦労した。少しでも土台があれば、その応用で頭に入るスピードは格段に違うであろうが、そうではなかったのも、植物同士の違いを見分けるのに精一杯で、結局覚えられてものは多くはなかった。ただ、暗記はうまくいかずとも、高度の違いで植生が変化する様子は感じられた。今まで教科書でしか知らなかったことを実際に目にする中で、植物のそれぞれの適応の様子が興味深く感じられた。 ロープワーク講習では単純なロープの結び方に始まり、少し応用的な結び方まで数種類の結び方を教わった。単純に結び方を覚えるだけでなく、どの結び方をどんな場面で使用するかを想定することが重要だと思った。ただ、これには少し経験を積む必要があることは間違いない。机の上で手を動かすだけでなく、色々な場面で実際に使用することが上達の第一歩であろう。 火打山登山では、久々に長い距離を歩き、言葉にし難い達成感を得ることができた。整備された登山道なのでベテランの方々には物足りないのかもしれないが、初めての登山となる私にとっては十分なものであった。序盤からペースを抑えて、リズム良く歩くことを意識した結果、想定したよりも楽に歩くことができた。天気は曇りで山頂からは何も見えなかったことが唯一残念であった。 今回の実習では、先生方の実体験を聞き、自分の手を足を動かし色々な体験を通すことで、フィールドワークにおける心構えや、安全に対する意識を確認することができた。もし、フィールドワーク中に何か想定外の事故に巻き込まれても、一旦落ち着き、冷静に諦めず対処したいと思った。また、ヒュッテ周辺の景色の良さもモチベーションを高める要素の一つであったことは間違いない。また機会があれば訪れたい。

火打山、山頂にて

ヒュッテ外観

## 「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

### 6. その他 (特記事項など)

今回の実習にて、杉山先生、山本先生、幸島先生、滝沢先生には多大な協力、支援をいただき感謝申し上げます。並びに企画、経費支援をしていただいた PWS に感謝申し上げます。